

家庭教育支援者地区別研修（会津地区）

- 目的： 家庭教育に関わる地域の課題や子どもたちを受け止める家庭環境づくりについて研修を深め、地域で子育てをする親を支援する家庭教育支援者の実践力を高める。
- 日時： 令和4年度8月31日（水）13：30～16：30
- 場所： 会津若松市北会津公民館
- 参加者： 24名

講義「家庭教育支援チームについて」

会津教育事務所 社会教育主事兼指導主事 土屋 浩行



（1）家庭教育支援チームとは

身近な地域での様々な取組や講座等学習機会の提供、親子で参加する行事の実施、子育てや家庭教育に関する相談対応に関する相談対応、地域の情報提供等を行う。状況に応じて、学校や地域、教育委員会などの行政機関や福祉関係機関と連携・協働しながら、子育てや家庭教育を支援する。

（2）活動内容

- ① 学びの場(学習機会)の提供
- ② 地域の居場所づくり(親子参加型行事等の実施)
- ③ アウトリーチ型家庭教育支援(保護者や子どもの居場所に出向いて届ける支援)
- ④ 家庭教育に関する情報提供 など



（3）会津の家庭教育支援チームの紹介

福島県家庭教育インストラクター会津さざなみの会



野外活動を通して、より良い親子関係の構築を目指し、さまざまな活動に取り組んでいます。

家庭教育相談室「こころのオアシス」



子育てや家庭教育に関する悩みなどたくさんの保護者の皆様から相談をお受けしております。

喜多方市家庭教育支援チーム「もも」



助けが必要な保護者には、いつでも「もものおばちゃんがいる」と思ってもらえるような活動を目指しています。

あいづCAP



子どもたちが様々な暴力から自分を守るための人権教育プログラムを学ぶワークショップを提供しています。

登録は

詳細は、「福島県教育庁社会教育課」のホームページを御覧ください。
登録申請書に必要事項を記載し、会津教育事務所に提出してください。

ワークショップ

「すべての子に安心・自信・自由を」

～子どもの持つ力を信じ、「生きる力」を引き出す方法を学ぶ～

講師：あいづCAP

(1) CAPとは

Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止)

- ・ 学校・地域・家庭で起こる可能性がある暴力とは何か
→ いじめ、無視、からかい、噂話、虐待、ネグレクト
- ・ 暴力を受けたとき、どんな気持ちになるか
→ 悲しい、逃げたくなる、自信がなくなる、自己肯定感がなくなる、恨み、怒り
- ・ 暴力を受けたら、どんな状態になってしまうか
→ 眠れない、精神疾患、病気、人に会いたくなくなる、不登校、暴力的になる
- ・ 暴力に遭いやすい3つの原因
→ ① 社会的な力を持たされていない ② 知識や経験にかけている ③ 孤立させられている



(2) CAPプログラムの構成と内容

子どものワークショップの紹介 (ロールプレイの実践)

② 「いや」って言ってもいいんだよ



① ○○○ちゃん、私のランドセル持って帰って

③ 「いや」という言葉は自分の権利を守る大切な言葉

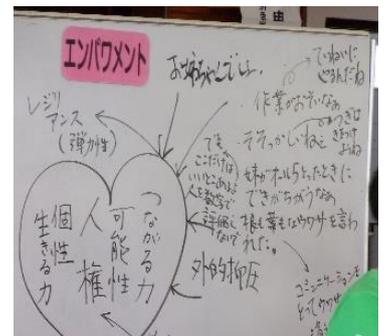
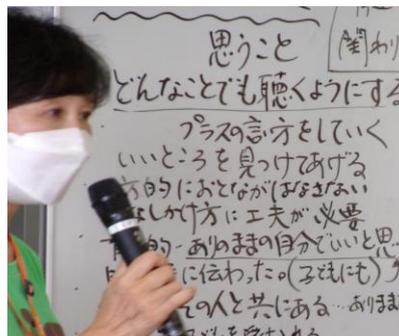
④ 友達と一緒に言ってもらうのはいい考えだね

(3) CAPプログラムの3つの柱

- ① 子どもの権利(人権意識)
 - ・ 自分を大切に思うこと ・ 安心、自信、自由の権利
 - ・ 権利を奪われたときは、「嫌だと伝える」、「逃げる」、「相談する」
- ② エンパワメント(生まれながらに平等に持っている力)
 - ・ 子どもの力を信じて、その力を引き出す関わり方 (肯定、受容、共感、信頼、尊重、知識、愛情)
- ③ コミュニティ
 - ・ 学校と家庭と地域をつなぐ

(4) 大人ができること

- 子どもの話を聴く方法
(子どもの気持ちを受け止める)
「私に話してくれてありがとう」
「あなたが悪いんじゃないよ」
「あなたの言ったことを信じるよ」



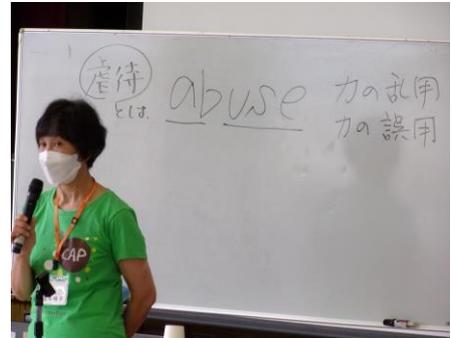
(5) その他

○ 子どもの虐待4つの分類

- ・ 身体的虐待(乳幼児揺さぶり症候群・代理ミュンヒハウゼン症候群)
- ・ 性的虐待
- ・ ネグレクト
- ・ 心理的虐待

○ 虐待の兆候

- ・ 虐待の最も分かりやすいサインは2つ
 - ① 子どもの様子が今までと大きく違う
 - ② 子どもが虐待かなと思うようなことを言った
- ・ 虐待とは child abuse(ab は use の対局を表す接頭語)
残虐なむごい扱いでなくても、子どもに対して大人が、その力を濫用した不適切な対応が child abuse の意味である



○ 虐待を受けた子どもの典型的な心理パターン

- ・ 被虐待児は、あなたの助けをひたすら待ち望んでいる弱々しい子であることは稀である
- ・ 被虐待児を援助、救出しようとして多大なエネルギーを費やしても、この子どもから嫌がられ、拒否され、時には攻撃されることもある得ることを覚悟する

○ 虐待の連鎖

- ・ 虐待を受けた子どもに、話を聴く、存在を認める、「あなたは悪くない」等の関わりを持てば、約7割の人は、虐待を繰り返さない 人生の岐路となるのは、援助者に出会えたか否かである

(6) 最後に

○ 子どもの心をあたたかくする言葉(GIFT)を隣の方に伝える

- ① 子どもの心をあたたかくする言葉(GIFT)
 - ・ ありがとう ・ 大好き ・ がんばったね ・ そうだね
 - ・ 素晴らしい ・ 助かるなあ 等から今隣の方に言ってもらいたい言葉を1つ選び伝える。
- ② 隣の方は、心を込めてその言葉を伝える。(交替する)



【参加者の声】

- 暴力とは何か、生きるための権利、エンパワメント、肯定的な関わり方など多岐に渡ったお話は、とてもためになった。
- ロールプレイが上手で説得力があった。また問答をしながら進めていくワークショップがよかった。
- 現在のSSW、そして人権擁護委員の相談事業に大いに役に立つ内容だった。
- 隣の方に「心をあたたかくする言葉」(GIFT)を言われてみて、とてもうれしい気持ちになった。今後は、その言葉を進んで発していこうと思った。
- 「心をあたたかくする言葉」(GIFT)を待っている子どもたちは、たくさんいると思う。ホカホカとあたたかな関係作りを心がけて、子どもたちと接していきたいと思った。